

CAVOKV 航海日誌 2013年#5

7/1(Guzelce)~7/19(Kusadashi)

2013年7月22日 松崎義邦氏メール

皆様に

2日から正田さん(ホッケー部 S53 卒)、7日から広瀬さん(S45 年卒)が参加して賑やかな航海になりました。

エーゲ海の夏の強風メルテメの合間を縫って、穏やかな時に連日航海したり、逆にメルテメが強い時は1週間ほど収まるのをマリーナで待ったりの航海でした。ダーダネルス海峡をエーゲ海に抜けるときはヨーロッパサイドの丘の上の向日葵畑がまだ3分咲きぐらいでしたがとても綺麗に見えました。往路と違い復路は潮流に乗り快速艇の様に海峡を通過出来ました。

チェシメでは入り江にアンカーを打ってターコイズブルーの海で泳いだり、海中温泉に浸かったり楽しみました。テオスでは、往路チャナッカレで友人になった Destiny 号と Maranka 号と偶然に再会しました。ここではメルテメの“ごうごう”と云う風のうなりの洗礼を受け、その強風が1週間程続き出港出来ず滞在しました。

幸いに Destiny 号の方が良くこの地を知っていてイズミールに一緒に行ったり、食事したり楽しむことが出来ました。又ローマ時代に栄えたエフィソス遺跡を観光したりマリーナから歩いて行けるテオス遺跡に行ったり、プールで泳いだりそれなりに充実した日々を過ごしました。そして広瀬さんは18日に下船してイスタンブールに向かいました。

翌19日になり風もやっと収まり1週間滞在したテオス・マリーナを出港して、久しぶりのセーリングで北からの追い風の順風を受けてクシャダシに入港しました。ここで三浦さん(H23 年卒)と孫の陸が乗船を予定しています。

トルコは南に行くに従い入り江が多くなり風光明媚なところが多くなりますので、錨泊含めてのターコイズブルーの海を楽しみたいと思っています。

Kusadasi にて
CAVOK5 松崎義邦

航海日誌 2013年 #5

7月1日(月曜日)Guzelce 曇り

今日も曇りの天気です。少し涼しい気温だ。寒冷前線の尻尾の通過の様だ。これからはメルテメのシーズンなので風を見ながらの行動プランが必要になる。

明日夕方着の便で正田さんが来るので大掃除を予定していたが天候不順につき明日にすることにする。塩野七生の本を数冊持ってきたので読み返しの読書を楽しむ。二日出かけず艇に居ると体が休む。

6日頃から風が強くなるので正田さんには申し訳ないが来た翌日の3日にはここを出港して、来た道を南に戻ることにする。7日に広瀬さんが Ayvlik に来るので5日には着きたいと思って計画を練り直した。

昼食はマツタケ風味のご飯を頂く。お昼寝の後マリーナのオフィスに出向き4日に停泊予定のチャナッカレに電話してもらい予約を取る。前回結構一杯だったので用心のためだ。

天候が安定している時は心配しないが強風の予報が出ている時はマリーナの予約での確保が大事だ。トルコに入りマリーナでも英語が通じないところが出てきた。この町では殆ど英語は通じないので何かと不便だ。

昨日までの航海日誌を整理して皆さんに送らせてもらった。

悦子に買い物を頼まれ自転車でラムチャップ、野菜とワインを買ってくる。ラムチャップとても美味しいので地元の人に聞いてみると、ここから北方面は美味しいラムで有名だそうだった。このラムは明日着の正田さん用で、今晚の夕食はカレーライスを頂く。

今日もゆっくりした静かな一日を過ごした。

7月2日（火曜日）Guzelce 快晴

今日は柴崎さんのステラに乗っている正田さんがイスタンブールに着く日だ。午前中、昨日曇りで出来なかった大掃除や布団干しをする。

明日は早朝出港予定なので今日までの支払いを済ます。時々ある事だが、現金だと税金無しカード支払いだと18%の税金が付くと云う事なので現金で支払う。日本では考えられない事だ。此処の係留料はイスタンブール周辺のマリーナでは安く一日 95TL(約 5000 円)だった。

正田さんはイスタンブール 18 時着予定のトルコ航空で来るので 15 時にマリーナを出てバスと地下鉄に乗り空港に行く。

今月の 20 日にヨット部の若い後輩の三浦綾乃さんと空港で待ち合わせ、それと孫の 10 歳の陸君が日本から一人旅でイスタンブールに来るのでその引き取り場所等の下見をする。予定より早く成田からのトルコ航空 51 便は着陸した。偶然だがこの便の機長は JAL からトルコ航空に移籍した機長でイスタンブール在籍と云うことで後輩の江原さんから紹介を受けていた人だった。この方は江原さんの幼稚舎時代の同級生だそうだ。

イスタンブールでは会う機会が無く、偶然今日の便でイスタンブールに戻るとの事で、出口で待ち合わせをしていた。待っていると正田さんと機長とその方の奥さんと 3 人一緒に出てきたので短い時間であったが初対面のお話をして再会を約して別れる。

正田さんの荷物もあるのでタクシーでマリーナに向かう。イスタンブール周辺は交通渋滞が激しく帰りのラッシュとも重なり時間がかかった。

艇に着いてから歓迎夕食会を赤ワインとラムチョップ、ポテトサラダ、グリーンサラダ、インゲンの

炒め物で開く。正田さんは長旅にもめげずお元気で 11 時過ぎまで宴会をした。

7月3日（水曜日）Guzelce～Murefte（60NM）快晴 北～東 5～10 ノット

正田さんの長旅の疲れを取るため一日ゆっくりしたいところだが 6 日あたりからメルテメが強く吹く予報なので先を急いで 60NM 先のムレフテに行く。朝 05:50 に出港する。朝食は出港後おにぎり味噌汁を頂く。

2 時間程機走した後後ろからの北東風が吹き始めてジェネカーを上げて帆走する。中々風は気まぐれで 2 時間ほどで風が弱まり低速が 3 ノットに落ちたのでジェネカーをおろして再度機走にする。地中海では天気の良い時ある風のパターンだ。これにもめげずにセールの上げ下げを楽しんでいる。

昼前に風が北になり良い風になったのでジェネカーを再度上げて 10 ノット以上の風を受けて快調に帆走する。

ムレフテ入港 1 時間前より風が落ちてきたので機走にして 17:00 にムレフテの岸壁に横着けにする。前回来た時と同じ場所だ。

岸壁の突端では子供達が泳いでいて小学校上級生の子供が 3 人 CAVOK5 に来て乗って写真を撮って良いかと云うので歓迎してあげた。とってもかわいい子供達で色々おしゃべりをしていった。



又カナダ人の女性が来て日本艇のハイドロジア号の稲次キャプテン、手まりの関山キャプテンを知っているかと聞いてきた。

お二人と良くしていると話したところ、東地中海ラリーと云うイスタンブールからエジプトまで行くラリーに参加したときのお友達だそうだ。その時稲次さんが作ったお刺身が盛り付けも綺麗で美味しかったと褒めていた。

今度はこのマリーナのスタッフがきてコックピットで一緒にビールを飲む。そして彼はトルコの薄いパンでチーズとハムをサンドウィッチにした料理を赤ワインと共にもってきて頂く。彼はトルコ語しか話さないのでチンプンカンプンだが一部何とか理解できた。

彼が帰った後ここはシャワーが無いのでデッキでシャワーを浴びる。夕食は彼のサンドウィッチで済ますことにして、正田さんの疲れもあるので早々と就寝する。

7月4日（木曜日）Murefte～Canakkale（53NM）快晴 北東 5～15 ノット

朝 0635 に舳いを解き出港する。10 時過ぎより北東から良い風が吹き出したのでジェネカーを上げて 5 ノット前後の速度でセーリングを楽しむ。お昼にサンマの蒲焼丼を頂いた後、風が 10 ノット以上吹き出し 6 ノット以上の速度で快調に帆走する。時々風が 15 ノットを超えるようになり早めにジェネカーを降ろし、ジブセールとメインでも 6 ノットを確保する。

ダーダネルス海峡に入り右側通行になるので、そのさらに右側の岸よりを走り、後ろから来る本船を抜かす。チャナッカレはダーダネル海峡を挟んでアジア側にあるので途中で海峡を横断してアジア側につく。

1 か月ぶりにチャナッカレ・マリーナに戻り、15:40 に舳いを取るが横風が強く船首が振られスターンからの槍着けに若干の苦勞をする。

いつもの様に冷えたビールで到着の乾杯をする。日射に照らされた体にビールと風が気持ち良い。



(ダーダネルス海峡の向日葵畑)

その後買い物に町に出てカリフルのスーパーマーケットで食料を補充する。

正田さんが来て連日のセーリングだったので夕食をしてなかったのシャワーを浴びた後、町に出て外食にした。

魚を食べることにして海岸沿いのレストランを探すが今一つ美味しそうでないの、裏道に入り地元の人だけが行くようなレストランでイワシのフライ、カルマリのフライ、サバのグリル、キョフテ(肉ボール)、地中海サラダをビールで食べる。このレストランが当たりで魚が新鮮で美味しかった。

帰りは旧市街地を散歩してドルマティ(トルコ式伸びるアイスクリーム)を食べながら戻る。

7 月 5 日 (金曜日) Canakkale~Ayvalik (80NM) 快晴 北東 15~30 ノット

6 日以降北の強風メルテメが吹き始めるので往路この間で寄ったバジジャーダ、ババッカレをパスして 80NM 先のアイワルクに一気に行くことにする。

朝 05:45 に舳いを解く。朝から東北東の良い風が吹き追手で快調にダーダネルス海峡の狭いところ抜ける。潮の流れが強いところで 4 ノット近くあり増してきた風速もあって GPS 速度(対地速度)10 ノットを超える。真追手では観音開きが有効で安定した走りをしてくれる。

ダーダネル海峡を越えると更に風が強まり一面白波が立ち始める。30 ノット近くの風の中観音開きのフルセールで 7 ノット以上の速度をキープする。風が強くても波が大きくならないので艇は安定して快調だ。

バツバカレのある半島迄約 50NM を追手で快調に飛ばせた半島から南東の方へコースを変更してアイワルクを目指す。風が今度斜め前方から受けるようになったのと、半島からの吹き下ろしの風が強いのでジブ、メインとも3ポイントリーフにして安定さす。それでもスピードは 6 ノット以上だ。

お昼は揺れがあるので昨日買ったトルコ風サンドウィッチとビールで頂く。

14 時過ぎに突然風が弱まりフルセールにするが 15 時には微風になってしまい機走で細い入り江の通路を通りアイワルクマリーナに 17:20 分に舳う。80NM を約 12 時間で走ったことになる。久しぶりのウサギが飛び跳ねるなかでの豪快なセーリングであった。

トルコに来る前のギリシャのレスボスでレンタカーに忘れたカメラが見つかり、ここアイワルクのマリーナに届けてくれることになっていたが、うれしい事にオフィスで預かってくれて受け取ることが出来た。此処でも人に助けられている。感謝だ。

正田さんも 12 時間のフライトで成田から来てその翌日から、60NM、53NM、80NM と連日の航海で疲れも溜まっている事だし、デッキの水洗いだけして今日はゆっくり艇で休むことにする。

夕食は鳥の照り焼き、野菜サラダ、ラトーユ、ご飯を白ワインで頂く。デッキの上で爽やかな風を浴びながらの夕食は格別に美味しい。

7 月 6 日（土曜日） Ayvalik 快晴 北東強風

久しぶりにゆっくり寝る。

朝早い航海の時は出港してから、落ち着いた段階で朝食をとるが今日は久しぶりにマリーナでの朝食なので豪華にオムレットと、キノコと野菜のソテー、トーストを頂く。

食後町の観光に行く。今日は土曜日のせいか、港の岸壁につないである多数のガレット船に観光客が乗って出港準備中で賑やかだ。お昼はトルコ料理をと云うことで牛のケバブにブルグリ・ピラフと云う小麦のケッチャブ味ライスの付け合せ、パトゥルジャンル・ケバブ（茄子とひき肉を交互に串刺し）、ドマテスリ・ケバブ（肉と野菜の串焼き）、ピリ辛の唐辛子が入っているサラダをビールで食べる。3 人ともお腹一杯になる。

前回行ったバザールの中にある店が見つからず諦めて艇に戻る。ゆっくり午後を艇で過ごして夕食にソーセージ、ハム、チーズ、ラトーユとパセリ・ライスと赤ワインでデッキで心地良い風を浴びながら頂く。

7 月 7 日（日曜日） Ayvalik 快晴 北東の強風

ゆっくりした時間の朝食を頂いた後、正田さんはベルガモ観光に 10 時前にバスで出かける。

暫くメルテミが強く吹く予報なので今後の航海の予定に頭を悩ます。早いところメルテミの比較的影響の少ないディデム以南に進みたい。

一応今日までのマリーナの支払いを済まして明日出港出来るよう準備する。次の予定地は 70NM 南にある Cesme だがここと同じ系列である Setur Cesme Marina にオフィスから予約を入れてもらうが一杯との事で予約は取れなかった。仕方ないので 40NM 先にある Foca の港に行く予定にする。

風が強い時は安全のシェルターと設備のあるマリーナに入港したいものだ。ここでも入港してくる艇を係留するのにゴムボートに乗ったスタッフが船首を支えたりして強風の横風の中手伝って係留している。

プロパンガスの充填をしたかったが日曜日で入れられず次回に伸ばす。シャワーはデッキの上で水道の水を直に浴びる。結構気持ち良い。

広瀬さんがイスタンブールからバスでアイワルクのオトガル(トルコ独特で町の郊外の大規模なバスターミナル)について、そこからタクシーに乗ったとの連絡があったのでマリーナのゲートで待つ。ゲートから CAVOK5 の係留場所迄距離が大分あるので、そのままタクシーで CAVOK5 の係留ポイントまで行く。兎に角広いマリーナだ。

夕食はトルコ風味と日本風味のラムのグリル、ガーリックポテト、サラダ、ご飯をコックピットの上で気持ち良い風を受けながら赤ワインとロゼワインで広瀬さんの歓迎会を兼ねて頂く。

明日は風次第で出港を決めることにする。

7月8日(月曜日) Ayvalik~Cesme (70NM) 快晴 北東~北西 2~20 ノット

朝風が少し収まったので 40NM 先の Foca に向け出港することにする。VHF でスタッフに出港の旨伝えたらラバーボートで手伝いに来てくれた。横風の中隣のムアリングロープが長く伸びているので手伝いが無いとかなり難しい出港になるが、手伝ってくれて助かる。

6:35 に出港して“松の廊下”と云われている細い出口を抜けて追手で予報より弱い風の中南に下る。昼過ぎて良い風が吹き出したので昨日一杯で断られた Setur Cesme Marina に電話してみたところ OK との事、目的地を変更して Cesme に替えた。

斜め後ろからの 15 ノット以上の風を受けて 7~8 ノットの速度で気持ち良く飛ばす。このルートは先月ギリシャ側のキオス島からサモス島に行った時の北上コースの逆コースになり、トルコ側での南下しているコースになる。

16 時前より風が落ちてきたので機走に替えて 17:50 にチェスメのマリーナに入る。このマリーナはイズミールから近く、観光地として賑わっている。マリーナもまわりはホテルで囲まれ、係留艇は殆どモーターボートだった。なるほど一杯でぎちぎちに係留したが空いている場所は殆どなかった。

ついでからマリーナ内のレストランでイカのグリル、シーバスとオラーダ(鯛の一種)のグリル、サラダを食べる。このマリーナは豪華モーターボートが並びちょっと違和感のあるマリーナだった。

7月9日(火曜日) Setur Marina Cesme～Cesme Marina(9NM) 快晴 北 10～15

Setur Marina Cesme は殆どモータークルーザーでヨットは数える程しか係留していない。マリーナの周りは大きなリゾートホテルでマリーナ全体がホテルとの一体の感じで、違和感があったので1泊だけの係留にして、半島の南側のチェシメの町にある Cesme Marina に移動することにした。

10:30 にスタッフに手伝ってもらい出港する。途中 Dalyyankoy の入り江にある海水浴場の沖にアンカーを打って泳ぐ。お昼にそうめんを食べたり、昼寝をしたりゆっくり過ごす。水がターコイズ・ブルーでとてもきれいで泳いでいても気持ち良かった。15:30 にアンカーを上げて、半島を廻りチェスママリーナに向かう。

ここも前もってインターネットで予約を入れていた。但し14日以降80隻位集まるレースがあるので13日までの係留にしてほしいとの事だった。

我々はその前に出港する予定なので問題はないが、天気が悪い時だったら困ったものだ。

17:30 にマリーナに係留する。此処もスタッフがボートで案内してくれ係留を手伝ってくれる。



(チェシメでのアンカーリング)

前のセツツール・マリーナと違いヨットも多い。チェシメの町の直ぐ近くで町にはオスマン帝国が1508年に築城したお城が綺麗に残っている。

マリーナの私設も素晴らしく、トイレ、シャワーも今までのベスト3に入っている。オフィスのスタッフもフレンドリーで日本語の挨拶をしてくれた。同級生に日本人がいたようだ。

マリーナの周りには10軒近くの洒落たレストラン、その裏にはショッピングアーケードが軒を並べていた。泳いで疲れもあったのでレストランでの食事は明日にすることにして夕食はジャガイモと玉ねぎの入った鳥シチューとグリーンサラダ、ご飯、つくだ煮を頂く。

シチューにご飯を入れて食べたらリゾートの様で美味しかった。

7月10日(水曜日) Cesme Marina 快晴

朝はゆっくりとした時間の中の朝食でベーコン、玉ねぎ、パセリのオムレツとマッシュルーム、ズッキーニのソテーをパンとご飯で頂く。

10時過ぎに町に出て、先ずお城の見学に行く。海賊対策でオスマン帝国が作った城で港を見渡すように建っている。1770年にはオスマン・トルコとロシアとの戦争がはじまりここチェシメも海戦の戦場となった。

その後お店が軒を並べているメイン通りをショッピングがてら歩く。イズニック・タイルを見つけた。皆さんそれぞれお土産にかかった。イズニック・タイルはブルーモズクにも使われている。

お昼は出来るだけ地元の人が行きそうな所を見つけてケバブのサンドウィッチをビールで食べる。ここからドルムシュ(小型バス)で20分ぐらいの場所に海水浴場と海中温泉があるウルジャと云うところがあるのでそこに行く。

海中温泉はマリーナの堤防の脇にあり周りを石で囲んであり岩の間からかなり厚い温泉が湧いている。沖の OP 級の練習を見ながら心地良い入浴を楽しむ。

結構賑わっていて20人ぐらい入れ替わりで浸かっていた。

帰ってからシャワーを浴びて昼間目を付けておいたレストランに食事に行く。メゼ(前菜)は何種類かの



(ウルジャの海中温泉)

盛り合わせて注文したが茄子の料理が何種類かあり、とても美味しい。珍しいのはかぼちゃの花でご飯を包んだドルマデスのような料理があった。

メインはレバーのフライとオーベルジュを使ったひき肉料理を白、赤ワインで食べる。デザートはかぼちゃのケーキ、焼きプディングをトルココーヒーで食べる。かぼちゃのケーキが美味しかった。

帰り途中の店頭の前で自家製のワインを1本10TL で売っていたので白、赤2本ずつ買ってみる。艇に戻って白、赤それぞれ1本あけて味を試みるが10TL の割にはいけるので、明日白、赤5本ずつ買うことにする。

7月11日 (木曜日) Cesme Marina (快晴)

今日はここから16NM 先にある Alacti に行く予定で準備したが、アラジャティは北風が強い時は風が吹き抜け強風帯になるところだとドイツ艇から教えてもらった。又彼は親切にアラジャティの町は綺麗で魅力があるので私の車で町を案内してくれるとの事、買い物に行っている3人を待って、今日のヨットでのアラジャティ行きは中止して彼と一緒にアラジャティの町に夕方彼の車に乗せてもらい行くことにする。

朝昨日見つけた自家製ワインを赤白5本ずつ買う。お昼は正田さんがトマト味のイタリアンソーメンを作りそれを頂く。トマト味ソーメンを食べたのは初めてだったが薬味にオニオン、トマト、キュウリをたっぷり入れて大変おいしかった。

午後はチャンドラーでガスボンベを補給したり、読書したり、昼寝したりで各自過ごす。快晴の中、心地よい風を浴びながらの昼寝は気持ち良い。風が無いと大変熱いが日陰で風を受けていると心地よい。空気も乾燥している。

夕方6時にドイツ艇のボウラーさんにアラジャティに連れて行ってもらう。彼はここに家があり、奥さんがトルコ人でリタイアしてからここに住んでいるようだ。33ftのムーディ艇はドイツから運んできたようだ。奥さんの出身がイズミールでこの辺を詳しく知っていてアラジャティの歴史や良いレストランも教えてもらう。

この町は3,4年前までは田舎の静かな村だったのが大発展をして周りは住宅地が広がり、マリナーの周りには大きなホテルが建っていたり、建築中であったり開発が進んでいる。村は大きな町になりお店とレストランが町中隈なく連なっていた。トルコの経済の好調さをここでも感じた。

夕食は彼のお薦めのトルコ料理のお店でトルコ料理を楽しむ。残念なことでラマダンが始まり陽のある内はお酒が出せないとの事でノンアルコールの食事になった。彼は奥さんがキオスに行ってフェリーで帰ってくるということで食後我々と別れて迎に行く。

我々はドルムシュでチェシムに帰り、艇でワイン、ウイスキーを飲みながら夜を過ごす。

7月12日（金曜日） Cesme Marina～Teos(Sigacik) 38NM 北 12～20 ノット

昨日行く予定していたアダジャティをパスしてテオスマリーナに直行することにする。

8時にオフィスで支払を済ませて0830に舳を解く。北風に正対して舳ってあったので簡単に出港することが出来た。大変良いマリナーで気に入ったマリナーの一つになった。ここは一泊 80€であった。トルコのマリーナではトルコリラでもユーロでもどちらの支払いでもOKだ。

港を出てから直ぐセイルを張って北の良い風を受けて当初はアビームのコース、次に追手のコースに入り艇速を6ノット以上キープして気持ち良いセーリングを楽しむ。最後に湾に入るコースが片上りになるが20ノットの風の中ジブ、メイン共3ポイントのしても6ノット以上で快調に走る。

港の手前で、VHFでマリナーを呼び出すと直ぐラバーボートに乗ってスタッフが来てくれ舳う場所を案内してくれる。イスタンブールで一緒だったJohnさんからマリナーにも連絡が入っていて彼の艇の隣に案内してくれ15:30に舳を取る。

横風の中、係留場所に風上の位置で正対させバウスラスター(船首を振る装置)と推進力と使いながら両側の艇の間に流し込むように艇を槍着けした。自分ながら見事であった。

そしてチャナッカレで一緒だったMaranka号も来ておりDestny号共に再会することが出来た。

夕方Destny号の船上で、3艇総勢10名でハッピーアワーでビールとワインを頂く。結局終わったのが10時前になり、夕食は艇の残り物で済ます。



(テオスマリーナでのCAVOK5)

7月13日（土曜日） Teos 快晴 強風

ここは2年前にオープンしたマリーナで施設が充実して大変良いマリーナだ。トルコに来て感じるのだがトイレがどこも綺麗に清掃されていて又マリーナではシャワールームも広くて感じ良い。係留した前には、プールがありこちらは夏休みに入っているの家族連れで泳いでいる。

午前中に船尾のコーミングを囲っているゴムが外れたので修理を頼み直してもらう。広瀬さんと悦子は、女性陣と一緒にバスに乗って町に買い物に出かける。正田さんと私はプールで日光浴をしながら昼食をとる。直ぐ目の前がプールで環境が抜群だ。

今日は CAVOK5主催の夕食会なので準備する。総勢10名になるので CAVOK5の船上では無理なのでマリーナのテラスを借りてそこでやることにした。当初ラムチョップのBBQを予定したが風が強いのでBBQはやめてオープンで焼くことにした。

トルコのラムは美味しく、ニンニクと醤油で浸けて焼くと美味しく評判がとても良い。巻き寿司も作るがこれまた人気の料理となっている。Evaさん、Margotさんもメゼやラトーユを作って持ち寄って頂いた。

そして広瀬さんは甚兵衛、正田さんは浴衣そして Evaさんは悦子に着物を着せてもらい、夏の日本の海辺の風景が出現したようだった。

ビール、ワインどれだけ飲んだが定かでないが皆さんで大分飲んだ。歌を合唱したり楽しいひと時を過ごした。お開きしてからお酒を覚ますのにデッキで横になっていたらそのまま寝てしまった。目を覚ましたら1時半になっていた。気持ち良い夜だった。

7月14日（日曜日） Teos 快晴 強風

テオスの町でバザールがあるということで Destiny号、Maranka号の仲間と一緒に午前中歩く。地元のバザールで野菜からお菓子、そして骨董品、レース、装飾品と屋台に並んでいた。お昼にイワシ料理が美味しいという店でイワシのサンドウィッチ、グリル、フライを食べる。イワシそのものが美味しい。

午後はプールサイドで読書したりしてのんびり過ごす。いつも夕方になるとハッピーアワーと称してプールサイドに集まりビールタイムとなる。夕食はプールサイドにあるテラスレストランでBBQの食事で、今日も皆さんと盛り上がった。

7月15日（月曜日） Teos 快晴 強風

今日もメルテミが吹き続けている。陸に居ると日射が強い中風が心地よいが30ノット以上の風の

中帆走はしたくない。

近くにあるテオス遺跡に歩いて行く。ディオニソスの神殿跡だけが一部復興されていたが、現在作業中で一部の城壁等が掘り起こされていた。観光客は我々だけだった。艇に戻りソーメンをお昼に頂き、午後はいつもの様に各自のんびり過ごす。

夕食は悦子のカレーライスとフランス人 Eva さんが作ったミートボールスパゲティを囲んで CAVOK 5の上で、何と3艇10名が集まり楽しい夕餉を過ごした。

7月16日（火曜日）Teos 快晴 強風

当初は今日風が若干弱まる予報だったので出港を予定していたが相変わらず風のうなり声が聞こえているので出港を取りやめにする。広瀬さん7日に来てからアイワルク、チェシメ、別のマリナーのチェシメ、そしてここテオスと寄港地が少ないので出港したいところだが強風には勝てない。

Destiny 号、Maranka 号の皆さんがイズミールにレンタカーで行くとの事でお誘いを受けたので、一緒にマイクロバスのレンタカーでイズミールに行く。John さんはこのマリナーで今回艇を越冬させたので良くイズミールもご存じで案内してもらおう。

トルコ3番目に大きな都市で高層マンションが立ち並び海岸沿いの綺麗な都市であった。

街中の何でも揃う大きなバザールに行きそれぞれ買い物をする。広瀬さん、正田さんはお土産を探す。私はトロリングのロッドとリールを、釣りを良く知っている Maranka 号のゲストの John さんに付き合ってもらい大変安い値段でツナ用のセットを買うことが出来た。

お昼は街中のレストランでシシケバブのお肉を食べる。

今日帰国する Maranka 号のゲストの John 夫妻をイズミールの空港で降ろしてから Metro と云う大きなスーパーマーケットでビール、ワインその他購入してテオスに戻る。

夕食は皆さん胃が疲れ気味と云うことでお茶漬けご飯を海苔、梅干、昆布で頂くが胃もホッとしたかと思う。やはり我々は日本人の胃だ。

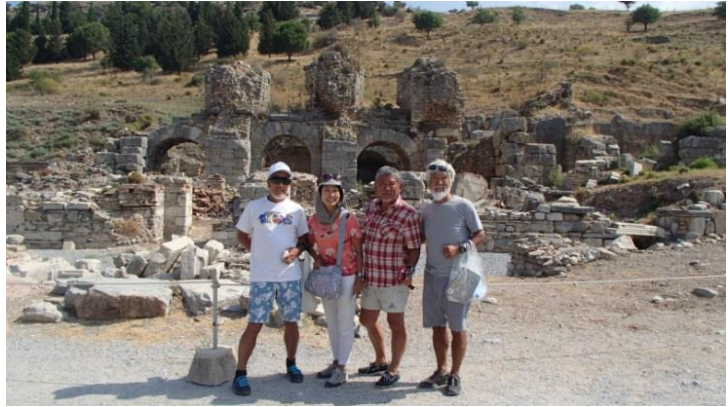
7月17日（水曜日）Teos 快晴 強風

朝9時にタクシーを予約してエフェソス遺跡に行く。

約1時間で到着する。遺跡の丘の上の方の南入り口から入りアゴラ、オデオン、市公会堂、トラヤヌスの泉、ハドリアヌス神殿、立派な建造物のケルスス図書館、2万4000人が収容できた大劇場、そして丘の上の住宅にはフレスコ画やモザイクが残されていて見ごたえがあった。

これらをクレステ通り、大理石の道でないであり当時の繁栄が偲ばれる。

エフェソスは古代ギリシャから繁栄を始め紀元前2世紀からローマの支配下にはいり「パクスローマナ」を享受して初代ローマ皇帝アウグストス(紀元前27年～後14年)の時代の最盛期には贅を尽くした建造物と20万人を超える住民がいたようだ。



(エフェソスの遺跡)

保存状態も良く当時の豊かな生活が目に見えた。

南から北入り口に降りてそこで待っていたタクシーで考古学博物館に行くが生憎と今年は休館で数々の出土品を見ることが出来ず残念だった。

帰りにこのあたりの名産である桃を買ってそのままマリーナに2時前に戻る。お昼は艇でスパゲティーノルマを頂く。



ラザーニアの夕食のお誘いを Maranka 号からあり、こちらはひき肉とお米をブドウの葉で包んだ悦子風ドルマを用意する。

大変美味しいラザーニアをご馳走してくれ最後のデザートの際はお腹一杯で頂くことは出来なかった。Maranka 号の Margot さん Destiny 号の Eva さんともお料理がお好きで上手だ。

お酒も大分いただいて、広瀬さんが明日帰るのでサヨナラパーティーも兼ねてくれた。皆さん心温かく親切で楽しい人達だ。

7月18日(木曜日) Teos 快晴 強風

10時に広瀬さんを送る。広瀬さんはイズミール迄タクシーで行き、イスタンブールに二泊して帰国予定だ。広瀬さんは7日から12日間の滞在だったが最後の6日間はメルテミの強風のためここテオスで足止めになってしまった。この6日間は連日轟々と風の音が聞こえていた。

「天気晴朗なれと波高し(風強し)」であった。午前中デッキの水洗い、キャビンの掃除等をして過ごし、午後は各自のんびり過ごす。

ここに大きなモーターボートを係留しているハッサンさんからチャイの誘いがありプールサイドで頂

く。彼は潜水艦に乗っていて、その後この海域でチャーターボートの仕事をして現在はリタイアしているが、これから行くトルコの海域の良いところ細かく教えてくれ助かる。ちょっとしたきっかけで親切にしてくれることが多い。嬉しい事だ。

夜は悦子の料理を楽しむ予定であったが明日我々が出港予定ということで Eva さんが皆さんとレストランに行こうと誘ってくれる。マリーナに隣接しているレストランでトルコ料理を食べてからバーでデザートを食べて名残を惜しむ。彼らもトルコを南下するので再会を約す。

我々は明日早朝クシャダシに向け1週間ぶりに出港する予定だ。

7月19日（金曜日） Teos～Kusadashi（33NM）快晴 北4～15ノット

朝 06:35 に隣に係留してある Maranka 号の Tony 夫妻の見送りを受けて1週間風待ちで滞在した Teos Marina から出港する。

朝方はいつも風が弱くなるが今日は予報通りいつもよりさらに弱い。湾を出るまで北風を真っ向から受けての機走であったが湾を出てからフリーの風になり北からの15ノット以上の風を受けて気持ち良く走る。朝食はおにぎりと味噌汁を頂く。

1時間後風が弱まって来たのでジェネカーをあげる。久しぶりのセーリングで気分爽快だ。その後風が安定せず、一時的に弱まり1時間弱ほど機走するが今度は北北西からの良い風が吹き出し5～6ノットの速度でセーリングする。

楽しみのお昼は鳥の煮込みをご飯で頂く。

昨日までのテオスでの強風とはまるで違い、順風の中、クシャダシに 13:30 入港する。大きなマリーナに係留だけで450隻、陸置きを加えると600隻置ける規模だ。クシャダシはエフェソスの遺跡の観光の拠点で豪華客船も停泊するところだ。

我々も停泊中のルビー・プリンセス号と云う大きな客船の脇を通過してマリーナに入港した。大きな町で港の周りは整備され大規模なショッピングアーケードがあり、海岸通りにはレストランや遊覧船の案内、旅行案内の店が並んで活気が大変ある。マリーナ内では風が全くなく灼熱の太陽の下じっとしているだけで汗が噴き出た。正田さんは早速水道にホースを繋ぎ、水浴びをしていた。

マリーナの手続きをした後レンタカーの手配に町に出る。明日10歳の孫の陸君が成田から一人旅でイスタンブールに到着するので迎えに行くが、先ずここから70km先にあるイズミール空港迄行ってそこから飛行機でイスタンブール迄行く。イズミール空港への足として借りることにした。

夕方になると心地よい風が吹き出し日中の暑さがやわらぎホツとする。

トルウトガレイスに長年艇を置いてある稲次さんからメールが入り、マリーナの前の

Mezgit と云う名のレストランが美味しいとの連絡を受けるが、疲れもあり艇でラムチョップとご飯を頂く。日中汗が噴き出たせいか冷えたビールが大変美味しかった。夕日がやっと沈んだのが9時頃でビールの後はワイン3本を飲む。楽しいお食事であった。 以上